

A. 黒田如水屋敷跡(三ノ丸御鷹屋敷跡)



関ヶ原の役の功により、黒田長政が筑前黒田藩の初代藩主となり福岡城を築いた後、黒田官兵衛（如水）も晩年を福岡城で過ごしました。その隠居地が現牡丹芍薬園です。

開園時間 9時～17時

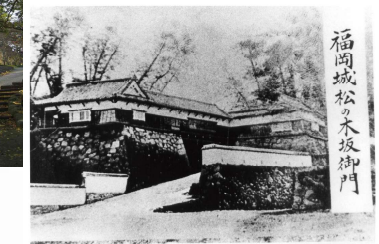
ただし、12月29日～1月3日は休み

B. 表御門跡（福岡城）



表御門は、大正7年（1918年）に、黒田家の菩提寺である崇福寺（博多区千代）に移築され、同寺の山門として使用されています。（写真右は古写真）

C. 松の木坂（福岡城）



二の丸に至るルート（門）の一つです。江戸時代には、城の防御のため、カギ型に曲がっていましたが、現代の改修で緩やかなカーブの坂に変わりました。（写真右は古写真）

みどころいろいろめぐってみよう!!

E. 天守台（福岡城）



福岡城にはもともと天守閣はなかったとされていますが、近年天守閣が存在したという説もあり、「幻の福岡城天守閣」をめぐる議論が続けられています。現在の天守台からは福岡市北側の風景が広く望めます。

F. 多聞櫓（福岡城）



江戸時代から城内に残っている建物で、国の重要文化財に指定されています。石垣側に「石落とし」や「狭間」（鉄砲を打つ小窓）が備えられていることから、いざというときの防御のための櫓と考えられています。内部はイベント時などに一般公開されています。

G. 潮見櫓



2025年3月完成

海を臨む「潮見」の櫓。大切に保管してきた江戸時代当時の部材を使用し、伝統的な建築技法で復元しました。

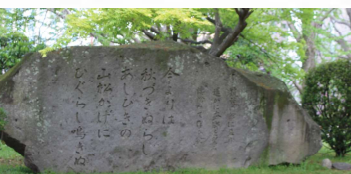
H. 鴻臚館跡展示館



平安時代の外交施設、鴻臚館の遺構の出土状態と復元建物、出土遺物を見ることができます。入場無料。開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

ただし、12月29日～1月3日は休館

I. 万葉歌碑



《今よりは 秋づきぬらし あしひきの 山松かげに ひぐらし鳴きぬ》西暦736年、新羅の国に派遣された使節一行が往路筑紫の館に着いた時、故郷大和の方を望んでよんだ歌が石碑となっています。筑紫の館は後に鴻臚館と呼ばれ、宿泊施設と迎賓館を兼ねたもので、ここ福岡城跡内にありました。

J. 名島門



小早川隆景が築いた名島城の脇門で、黒田長政が居城を名島城から福岡城に移すとき黒田24騎の一人である林掃部に下げ渡され、邸宅の門として使用されていたものです。明治の中ごろ、当時の代議士平岡浩太郎氏によって買い戻され、戦後現在地に移されたものです。

K. 東御門跡（福岡城）



藩主を支える家老職の屋敷があった三の丸から、二の丸→本丸→天守台と、城内を登っていくためのメインルートでした。「鏡石」と呼ばれる巨石や、石垣の上部には冠木（かぶき）（横木）を設置していた跡が見られます。

L. 旧母里太兵衛邸長屋門



福岡県指定文化財に指定されています。母里太兵衛は黒田24騎の一人です。母里太兵衛の当時の屋敷は、天神2丁目野村証券株式会社（現福岡天神センタービル）のあった地にあり、この長屋門はそこに構えられていました。保存のために、昭和40年にこの地に移築されたものです。

M. (伝) 潮見櫓（福岡城）



潮見櫓とは海を監視するためのもので、海に面した福岡城らしい櫓です。「(伝)」と付く理由は、博多区千代の崇福寺に移築されていた月見櫓が本物の潮見櫓であることが確認されたため、現在城内にある櫓を「(伝) 潮見櫓」と呼ぶようになりました。

N. 福岡城むかし探訪館



古地図や再現模型を通して、さまざまな角度から福岡城を身近に楽しく体感できる施設です。観光案内や休憩施設も併設していますので、ゆっくり鑑賞を楽しんでいただけます。開館時間：9時～17時（7～8月は9時～19時）ただし12月29日～1月3日は休館

D. 福岡城・鴻臚館 案内処 三の丸スクエア



三の丸スクエアでは、時の重なりを地層で表現した内観に、鴻臚館、福岡城の歴史をハイライトでご紹介しています。また、「セントラルパーク構想」を中心に、未来の姿についても知っていただくことができます。（開館時間：9時～17時）